

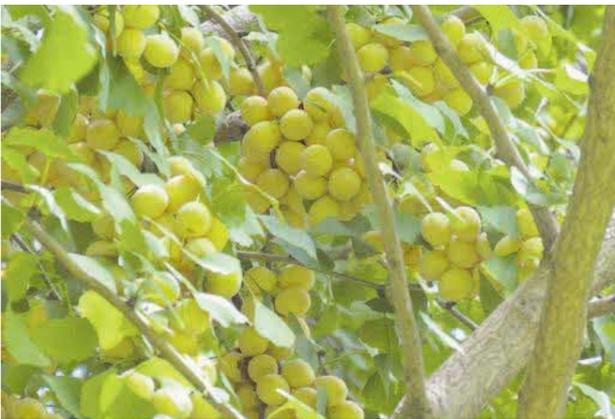
いいトコPhoto



▲妹の海デビュー  
初めての海に少し戸惑う妹と、妹の海デビューにオシャレして付き添う姉、2人の将来が楽しみな父  
●のんあゆパパ（南永井）



▲トコロんと結婚式  
小学校からの同級生と結婚しました。昨年2人の生まれ育った所沢への愛が詰まった結婚式を無事、執り行うことができました  
●ガッチュ（さいたま市）



▲シャインマスカット？いいえギンナンです！  
航空記念公園のいたるところにあるイチヨウの木。見上げるとなんとシャインマスカットのよう！  
●みーはる（牛沼）



いいトコ作品集



▲やがて新米の季節  
おにぎりがおいしいヨ  
●仲敏夫（山口）



▲どんぐり  
秋、さまざまな実の季節。人と人との出会いも実りますように  
●井上博子（上安松）

誰でもエッセイ

テーマ「テレビ」

テレビが来た頃

根岸恭子（元町）

我が家にテレビが来たのは昭和34年。20世帯の町営住宅では一番乗り。「6万円もした。」と父が言っていた。垂れ幕のようなテレビカバー付きで、見ない時はカバーを下ろした。そのうち「直に見ると目に悪い」とのことで青いパネルをはめるようになった。

紅白歌合戦は一大イベントで、狭い我が家に大勢の人が集まり、母はコーヒーや茶菓の接待に追われていた。クリスマスにも、「テレビ見せて」と来る子のために食べかけていたケーキを半分減らされ、悔しい思いをしたことも。

人形劇なのに男の人がヌウッと顔を出したり、子役の子がセリフをトチって「あっ」と口を押さえたりは日常茶飯事。放送局の事故で「しばらくお待ちください」も度々。ドラマの主役や子役にインフルエンザが大流行で、番組が放映できなくなり、急ぎよ病床の主役を見舞うロケ変更もあった。

私は熱かった

じっば（東所沢）

私はテレビが大好きだった。学校から帰ると、おやつを食べながら、ドラマの再放送を観て、夜は歌謡番組を見て、テレビ三昧の日々であった。ついに親の怒りを買って、テレビを取り上げられた時は、本気で泣いた。それほど私は熱かった。それが今、熱量もなくなりテレビもほとんど見なくなりました。一方、テレビの機能は向上し、自動録画までしてくれる。しかし、こちらの機能も使っていない。テレビが見たくて泣いた、あの頃の自分が懐かしい。

逃げ恥

レモン（小手指南）

テレビといえば、印象的だったドラマがあります。9年前に放送された「逃げるは恥だが役に立つ」です。結婚、恋愛、年齢に対する価値観など考えさせられることも多いドラマでした。星野源の主題歌「恋」や「恋ダンス」も同時に大ブームを起しました。見られた人も多いのでは。

このタイトル「逃げるは恥だが役に立つ」は、ハンガリーのことわざで、「自分の戦う場所を選べ」という意味で、自分が今いる場所、置かれている状況にしがみつく必要はない、自分の得意なことが活かせる場所へ行こう、逃げることも選択肢に入れようということだそうです。人生には、悩みや人間関係などで苦しむこともありすが、このことわざを考えたら、少しは楽になるのではないのでしょうか。ドラマで教わることも多いですね。

10月号のテーマ「私の推し」  
締め切り ●10月10日(木)



▲市HP（Qひばりちゃん）でダウンロードできます。